

レポート・2023.12.6・繁野玖美・作業療法士

北山ヨリ様 美馬達夫様

「信じる道を突き進むプロフェッショナル達」

お二人は同時通訳、医師と職業は異なるけれど、患者にとって良い医療を目指して行動されているプロフェッショナルだと強く感じた。それぞれの分野の第一人者で、こんな機会がなければ到底お話を聞くこともできない方達なのに、謙虚で気さくな心根を見せてくれた。感謝である。

北山様のお話にあった「公正競争規約」については、日本という国の忖度文化を感じた。そこにあるのは、困っている人達への想いや医学の進歩ではなく、自分の利益だけのような気がする。医療が変わるためには、「公正競争規約」が変わることが必要だと感じた。私にできることは何もないだろうが、こうした現実を知れたことは良かった。

そして、全ての現象はスペクトラムだという言葉に感銘を受けた。「きれいは汚い、汚いはきれい Fair is foul, and foul is fair」という見方を忘れまい。想像力と思考力を働かせて、世の中の様々な事象をスペクトラムとして捉えていきたい、と思った。

美馬様にはお会いしたこともないのに、いつもお会いしているような気がした。それは、ゆきさんの講義で質問されている姿を何度も見ていたからである。しかし、今日、お話を聴いて、美馬様が「ブラッドパッチ」の第一人者だと知り、何だか嬉しかった。

それは、脳脊髄液減少症を患った、忘れられない人がいるからである。世の中で、まだ脳脊髄液減少症のことがよくわからなかった時代、ある青年が私のいた都内の福祉センターに相談にいらした。その方は、静岡の病院で脳脊髄液減少症の診断を受けたこと、長時間続けて仕事をしていると苦しくなること、働けなくて生活が苦しいことなどを訴えた。当時は、高齢者施設の夜勤の介護助手をされていた。昼間の勤務よりも夜勤の方が楽なのだとおっしゃっていた。しかし、私のできることといえば話を聴くことだけだった。そのうち、静岡の病院でブラッドパッチを受けて少し体調が良くなった、と嬉しそうに報告されるようになった。東京から行くので経済的にも体力的にも大変だ、ともおっしゃっていた。あの時の彼は今どうしているだろうと思い出した。美馬様の講義を聴いて、回復されたと信じたいと思った。

北山様、美馬様、今日はありがとうございました。私もいつかお二人のようなプロフェッショナルに成長していきたいと思いました。もういい年なのですが、青年のような気持ちを思い起こしました。

繁野玖美